

埼玉経済

中野真治 AGS社長

インタビュー

社会や事業環境の不確実性が高まる中、官民に限らず時代に即した柔軟な対応や持続可能な開発目標(SDGs)の実現に向けた施策が求められている。IT技術によるシステム構築で県内企業・団体の経営基盤を支えるAGS(さいたま市浦和区)のトップに就任した中野真治社長に話を聞いた。(足立英樹)

位置し、強固な地盤、水害の危険性の少ない立地に立つ。設備の信頼性や安全性も日本データセンター協会が定める最高水準を誇っている。高度なセキュリティ、運用・監視サービスを24時間365日体制で提供し、お客さまの情報資産をお守りしている。

—人材確保は。

「当社の一番の資産は人材。昨年、人事戦略を新たに策定し多様な人材の確保や定着化、育成に取り組んでいる。社員エンジニアメントを特に重要視しており、テレワークなど柔軟な働き方や女性管理職比率、男性の育児休暇取得の向上などに努め、意識調査や1on1ミーティングを通じて自らの成長を実感できる、やりがいある職場環境の整備に努めている」

—今後の抱負やモットーは。

「不確実性が高く、急速な環境変化に柔軟に対応できる組織へと変革していく。従来踏襲は現状維持ではなく後退。社員には、長期経営ビジョン「キープ・オン・チェンジング(変革し続ける)」に従い、まずは身近な日々の業務を少しでも工夫することから始めようと呼んでいる。新たな工夫の積み重ねが最終的に大きな変革につながることを信じている」



「神社巡り」が趣味という中野社長。実直な九州男らしく「誰に対しても誠実でありたい」と話す

—県内市場について。
「埼玉を含む首都圏は成長性のあるマサーマーケット。当社は自治体や金融機関、事業法人のお客さまのIT化を進めているが、DX(デジタル・トランスフォーメーション)を加速し、ビジネスや組織の変革、新たな価値創造に貢献したい。そのためには取引先の業務内容を正しく理解し、適切なシステム構築を提案できる「プロのエンジニア集団」になることが重要だ」
—海外からのサイバー攻撃が拡大。
「当社のデータセンター(さいたまiDC)はさいたま市に

「セキュリティ対策は事業を継続する上で最重要課題。当社はお客さまの大切なデータやシステムをお預かりしており、情報セキュリティの認証取得や社員教育、技術的なIPS不正侵入防止システム)や監視など重層的な対策を講じている。社会的ニーズの高まりで、標的型攻撃メールの訓練やIPS監視サービスの要望も増えている」
—災害対策は。